

第13回北欧研究会のごあんない

The tax ratio in Sweden, in percentage of GDP

1993-2009

＝伊藤正純先生講演＝

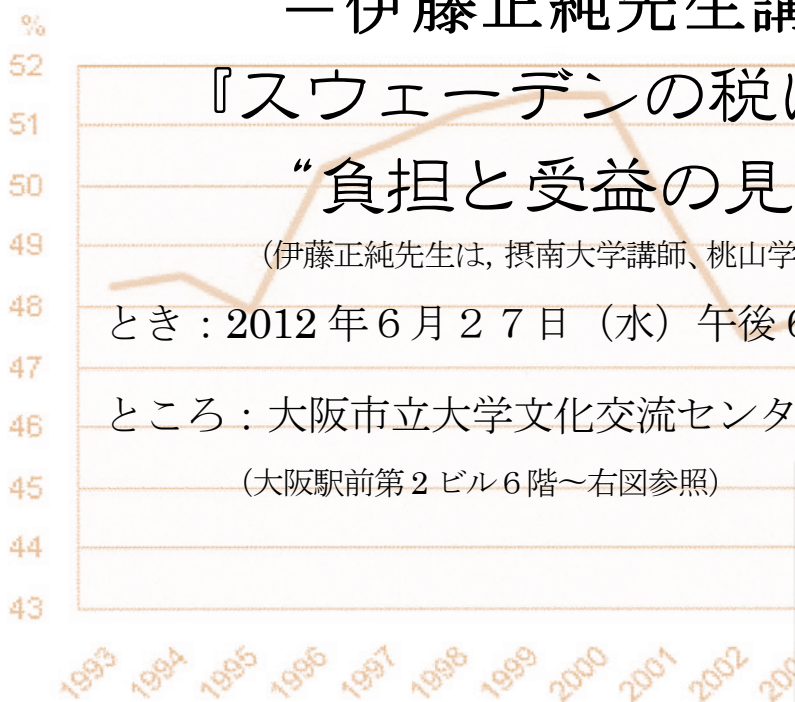
『スウェーデンの税における “負担と受益の見える化”』

(伊藤正純先生は、摂南大学講師、桃山学院大学教育研究所名誉所員です。)

とき：2012年6月27日（水）午後6時30分

ところ：大阪市立大学文化交流センター・小セミナー室

(大阪駅前第2ビル6階～右図参照)



Source: Statistics Sweden



- ・ 前回は、湯元健治・佐藤吉宗著『スウェーデンパラドックス』の序章から第2章までを深める。
- ・ 同書は高福祉高負担でありながら、高い成長率を実現しているスウェーデンの秘密を解き明かそうとしている。日本と同じ貿易立国でありながら、日本以上に輸出依存度が高いスウェーデンでは、グローバル化する経済の中で、積極的労働市場政策を展開をすることによって、国民の労働に対するインセンティブを高め、その成果を産業構造の転換に結び付けている。それは同時に、スウェーデン国民に安心・安全の生活を保障しながら、維持可能な社会保障の仕組みをいくつかの問題を抱えながらも組み立てられている。その一方で、競争力を失った産業には、政府は1970年代に造船業と鉄鋼業にした国家財政からの救済をした苦い経験から学び、たとえば近年の自動車産業には政府は支援を拒否した。このように福祉には「大きな政府」であるが、経済には「小さな政府」となっているスウェーデンであると著者たちは指摘している。
- ・ さて、日本はどうかである。「社会保障と税の一体改革」について論議がはじまっているが、そこで疑問となるのは、まるで消費税率を引上げれば、すべてうまくいくかのような議論だ。これからの社会保障のあり方や税のあり方をどのように考えるべきかだけでなく、中央政府と地方政府のあり方も含めてどのような日本社会を展望するかが今日とわれている。その点、スウェーデンの取り組みは大いに参考になると指摘する伊藤正純先生の講演は注目される。
- 参加費：運営・資料代として500円の負担の協力をお願いします。
- 会員以外の参加も歓迎します。
- 当日の連絡は、事務局の山田（090-8231-4697）へお願いします。

主催：北欧研究会（06-6354-7220）